

[令和5年度] 第7回 飯田市新文化会館検討委員会 会議録

会議名称	第7回 飯田市新文化会館整備検討委員会
開催日時	令和5年7月7日(金) 午後7時～午後8時59分
開催場所	飯田文化会館 展示室1～3
出席委員 (敬称略)	上沼俊彦、川崎好昭、塩澤哲夫、原田雅弘、飯島剛、 桑原利彦、佐々木祥二、小木曾俊夫、遠山あづみ、前澤正徳 森本典子、小澤櫻作、佐々木宏幸、山元浩
欠席委員 (敬称略)	片桐啓、高松和子、田中悦雄、黒河内智子、高山和夫
オブザーバー (敬称略)	井坪隆
出席事務局職員	教育委員会 教育次長：秦野高彦、統括支援担当専門主査：松下徹 文化会館 館長：下井善彦 館長補佐兼文化会館建設担当専門主査：筒井文彦 管理係：和田健太郎 事業係：係長木村喜宣、白井美樹、中島弘貴
会議の概要	<p>1 開会</p> <p>2 議事</p> <p>(1) 今後の進め方 【配布資料No.1】 基本構想の骨子(案)、イメージ 【配布資料No.2】 前回の振り返り【配布資料No.3、ニュースレター第5号】</p> <p>(2) 意見交換(ワークショップ) 【資料No.4】 「新しい文化会館の基本構想に向けて」 テーマ：飯田らしい施設機能 ～基本理念・活動を実現する機能・空間とは～</p> <p>班別意見交換、発表、全体意見交換</p> <p>【班編成】</p> <p>1班(5名) 塩澤、遠山、佐々木、井坪、松下 2班(5名) 川崎、桑原、森本、山元、中島 3班(6名) 原田、飯島、小澤、藤田(明大)、小磯(明大)、木村 4班(6名) 佐々木、小木曾、庄野(明大)、石川(明大)、秦野、和田 5班(4名) 上沼、前澤、下井、白井</p> <p>3 事務連絡</p> <p>4 閉会</p>

※公開用の会議録(発言)には委員の氏名を掲載いたしません。

1 開会

○委員長 皆さんこんばんは。

定刻になりましたので、ただいまから第7回新文化会館整備検討委員会を開催させていただきます。

最初に欠席の連絡がありました。黒河内委員、片桐委員、高松委員、高山委員、田中委員の計5名の方から欠席のご連絡がありましたのでご報告いたします。

まだ梅雨が明けてないのにもものすごく暑いですが、皆さん体調を崩されないようにご注意いただけたらと思います。

お知らせですが、山元学識委員が5月末で名古屋フィルハーモニー交響楽団を定年退職され、6月からは愛知県立芸術大学に勤務されております。ご承知おきください。お願いいたします。

それから学識委員である明治大学の佐々木先生の研究室の学生さんが4名、今日は参加していただいております。せっかくの機会ですので各班に入っていただいておりますが、オブザーバー的に議論に参加いただきたいと思っております。

恐れ入ります。4人の学生さん、お名前・学年・出身地などの自己紹介をお願いします。

○学生 明治大学の大学院の修士一年の〇〇です。出身地は横浜で今も横浜の実家で住んでいます。よろしくをお願いします。

○学生 同じく明治大学建築・アーバンデザイン研究室の修士一年の〇〇と申します。私も同じく出身は神奈川県横浜市です。本日はよろしくをお願いします。

○学生 同じく修士一年、〇〇と申します。同じく僕も神奈川県出身、横浜市です。今日はどうぞよろしくをお願いします。

○学生 明治大学学部四年の〇〇です。出身は東京都葛飾区で、男はつらいの寅さんとかが有名なところ。本日はよろしくをお願いします。

○委員長 ありがとうございます。突然のフリに皆さん快くお答えいただいてありがとうございます。

今日、すみません、私マスクを外して今、しゃべらせていただいております。どうもマスクがあると滑舌が悪いところにますます磨きがかかってしまうので、失礼します。

2 議 事

○委員長 それでは早速ですが議事に入ります。

(1) 今後の進め方、前回までの振り返り

○委員長 初めに(1)前回の振り返り・今後の進め方について、事務局から説明をお願いいたします。

○秦野(事務局) 教育次長の秦野でございます。

それでは資料に基づきましてご説明を差し上げたいと思います。本日は、初めに2ページの資料No.1「今後の進め方について」と3ページの資料No.2「基本構想骨子案について」をまずご説明を差し上げたいと思います。

それでは2ページの資料No.1を御覧いただきたいと思います。

昨年からは皆様に検討をお願いしてきておりますけれども、約2年かけて基本理念と基本構想をつくり上げていくという計画になっております。来年の2月頃に第10回の委員会を開催いたしまして、最終段階の基本構想案をご検討いただきたいと考えているところでございます。11月頃には、第9回の委員会を開催いたしまして、基本構想の素案の検討をいただく予定としております。次回の第8回の委員会では、施設機能の考え方を深めながら、基本構想の素案となる骨子案をご提示差し上げまして、委員の皆様からご意見をいただきたいというふうに考えております。さらにこれまで「仮」という形でしております基本理念も、このままで良いかご意見をいただきたいと思っております。

本日の第7回の委員会ですが、新しい文化会館の基本理念・活動を実現するための施設の機能や空間について、ワークショップで様々なご意見をいただきたいと考えております。

昨年度は、市民ワークショップを開催いたしまして、委員会でも市民の皆さんの意見を参考にさせていただいておりますけれども、今年度は文化会館を利用されている団体の皆さんとの意見交換の場を現在計画しているところでございます。今年度は、飯田文化協会に共催をしていただきまして、伊那谷文化芸術祭の出演団体を中心にお声がけしております。来週から5回を開催いたしまして、これまでの委員会の検討状況をお伝えするとともに、利用者の団体の皆さんの生の声をお聞きしたいと考えております。このご意見も、基本構想や、その後策定が必要となってきます基本計画に生かしていただきたいと考えております。

それでは3ページ、資料No.2をご覧になりながらお聞きいただきたいと思います。そもそも基本構想とはどのような仕上がりになるかというところでございますけれども、こちらの資料No.を見ていただきまして、基本構想の枠組みを示させていただいております。これは骨

子案とそのイメージという形ではありますが、基本構想の目次のイメージであります。

第2章につきましては、上位計画、市で持っている上位計画等や国の計画でございます。上位計画との関係や飯田市の文化環境の現状分析というような形になっておりますが、これはこれまでの計画やアンケート結果を外部の有識者の皆さんの助言を得ながら、事務局でまとめていく予定になっております。

最も大切な内容でございます3番の新しい文化会館（文化芸術施設）の基本理念とコンセプトの部分ですが、これまでの整備検討委員会や市民ワークショップの意見を反映させて作成していく予定でございます。

6番の施設整備の考え方につきましても、今後の整備基本計画につながる大切なものでございますので、今回と次回にご意見いただき、まとめ上げていきたいと考えております。

次のページを見ていただきたいと思っておりますけれども、これにつきましては基本構想に記載を、掲載をしていくイメージであります。これらにつきましても、整備検討委員会の意見を積み上げて共有されてきた内容をさらにまとめていくということを予定しております。

基本構想の後には、基本計画をつくる作業ということになりますけれども、基本計画につきましては、より具体的な施設規模や設備を含めた機能、概算事業費や事業スケジュールなど具体的な計画の内容というふうになってまいります。基本構想は基本理念を基にした事業のあり方、施設整備の方向性、大きな考え方をまとめていただくという段階でございますので、その後の基本計画に詳細な部分が記載されてくるということになります。

また、基本理念にまとめていただいた「みんなが 集い、創り 伝える 感動の飯田ひろば」を実現するために、立地に関する関心が高まっているということは十分承知をしておりますが、建設候補地に関しては理想を追求しながらも、その一方では法制度をクリアする、大きな面積を確保しなければならないという現実的な対応も伴うものでございますので、市の責任におきまして調査・検討・判断を行っていかなければならないというふうに捉えております。現在では、特定のエリアを前提とした検討ができないという点につきましては、何卒ご理解をいただきたいと思っております。よろしくお願いたします。

○下井（事務局） 続きまして、文化会館の下井であります。

前回の振り返りに入りたいと思っております。

今日お手元にニュースレターのボリューム5をお配りいたしました。まずはこれをご覧くださいと思います。前回の会議のまとめをここにしておりますが、開いていただいて左のページから行きますが、第6回の委員会ということでございました。「飯田らしい表現活動とは」ということで、これまでとこれからということでお二人の方に話題提供をいただい

ております。

まずは委員から、「飯田らしい表現活動のこれまで」というようなことでお話をいただいております。飯田に元々あります、盆踊りとか人形浄瑠璃、そういったことを例に引いて、「外からの文化を自分たちのものにしていく精神性があるんじゃないか」というようなことを提言いただいております。それから課題ということになりましょうか、「関心のない人たちにも広げていく意識を持つべきだろう」というようなことをご提言いただきました。

続いて右のページにまいります。学識委員のほうから上田のサントミュージーゼの取組を例にして紹介をいただいております。この中ではいろいろお話いただきましたけれども、個人的には、アウトリーチについてのことが、私はもう少し時間をとって聞けたら良かったなと思っております。上田の市内の小学校でプロ演奏家によるコンサートをやり、それが地域コンサートにつながり、最終的にはサントミュージーゼでコンサートにというようなお話をいただいておりますので、また何かの機会にこういうお話をいただけたらうれしいと思っております。

それから学識委員には、そのまとめということで飯田らしさということで3つのポイントを挙げていただきました。他地域の文化の吸収と、展開してきた背景。それから2つ目として日常と文化とのつながり。3つ目として専門家とのつながり、ということをお話いただいております。

このニュースレターの最後のページになりますけれども、これは皆様方、意見交換をいただいたものの取りまとめということで、今日の資料でいきますと資料No.3です。5ページに当たりますけれども、この資料No.3にこれを少し大きくしたものを掲載してございます。

1班からまいります。「ムトスの精神が飯田らしさにつながるのではないか」という発表で、「飯田はこれまでも外からの文化を取り入れ、自分たちで工夫し守りながら付加価値をつけ、発信することを大事にしてきた。リニアが来て都会との距離や時間が短縮になることで大きなものが入ってくるけれども、それでも飯田のスタイルは維持される。文化は継承されていくのではないか」というようなお話でありました。

2班は、「地域内外の専門家とのつながりが飯田らしさを感じる」という発表でございました。

3班は、「学識委員の『公共のものは作るものではなく、実になっていくもの』という言葉に共感した」という発表がございました。「市民の意見を聞きながら一つ一つ実を大きくしていくということが大切で、バランスを保ちながら実を大きくしていく」という言葉が印象

に残っております。

4班は、人形劇カーニバル飯田から現在の、ちょうどこれから始まりますけれども、いいだ人形劇フェスタに移行した例を引いていただいて、「民間主体の活動を、行政が支える」ということが大事である」ということを発表いただきました。

5班については、「自然と足を運びたくなる文化会館に」という発表でありましたけれども、「文化とは元々遊びから来ているんだ。落語、浄瑠璃、歌舞伎もそうだよ」ということでございました。それから「カリスマおじさん・おばさん」っていうようなこともいただきました。「昔はすごい人がいて、カリスマおじさん・おばさんがいて、人が集まり、文化が生まれる、人を育てることが大事だよ」ということを発表いただきました。

それぞれの班で活発な意見交換をしていただきました。飯田らしい表現活動として、「飯田らしさ」、それから「ありのままの飯田の芸術性、社会的役割をさらに深めていくことが大切である」ということが共有されたと思っております。

振り返りとしての説明は以上でありますけれども、話題提供のまとめ役をお願いしました学識委員から補足をお願いしたいと思っております。

○学識委員 皆様こんばんは。

今、大変的確にご説明をいただいたかと思うんですけれども、毎回、感心して拝見するんですが、このニュースレターに非常によく毎回の議論の内容がまとめられているなあというふうに思います。

まさにこの「飯田らしい表現活動とは」というこの「飯田らしさ」がまとめられているこのニュースレターの内容というのが、今日の議論の中で非常に重要な意味を占めてくるだろうというふうに思っております。

今日は「基本理念・活動を実現する機能・空間とは」ということで話をする、議論するということですね。

まさに我々の建築、あるいは都市デザインというのは、活動というアクティビティ、人がそこで何をするのかということが主な目的としてあって、その器となるような空間っていうのをどういうふうにつくろうかっていうのを考えていくっていうことですね。すなわち空間というのは目的ではなくて手段であって、その空間によってアクティビティというものがそこで生まれるというような考え方をします。

その点では、この資料No.4の内容、30のキーワードという多くが、皆さんが考えた活動の内容が示してあって、その下の段、左側に「求められること」と書いてありますけれども、それがまさに今日議論の対象となる機能や空間ということになっているかと思っております。

この骨格にニュースレターにある前回の「飯田らしさという表現活動」というものの独自性を加味しながら、飯田ならではの新たな文化会館の機能や空間のあり方を議論していくというのが、本日のワークショップの内容になるかと思います。議論は後半に及ぶかとも思いますけれども、ぜひ充実した議論が行われればというふうに思っております。

私からは以上です。

○委員長 ありがとうございます。

ただいま（１）前回の振り返り・今後の進め方について説明がありました。

ご質問等ありましたらご発言いただきたいと思います。

毎回のことで大切失礼ですが、発言される場合にはお手数ですが挙手していただき、お名前をおっしゃってから着座のままご発言いただくようお願いいたします。

どなたかご発言ありますか。

（発言する者なし）

○委員長 特には今のところよろしいですか。

（２）意見交換（ワークショップ）

○委員長 それでは（２）の意見交換、ワークショップのほうに進みたいというふうに思います。

本日は基本理念を実現するために必要な施設整備について今まとめていただきましたけれども、ということ、その視点で各班で意見交換をしていただきます。その後、班ごとに発表をしていただき、全員で共通にしたいというふうに思います。

それではワークショップの進め方について事務局から説明をお願いいたします。

○下井（事務局） それでは事務局から説明いたします。

委員長・副委員長は、お席にお付きいただきたいと思います。

今日の資料の６ページになります。資料No.4ということで、先ほど学識委員から一部ご紹介をいただきましたけれども、イメージするものはこの表といいますか、この図であります。この図の上半分というのは、これまでも何回か皆さんに見ていただいたものだと思いますが、その下のほうですね、「求められること」ということで赤い枠で３つ囲ってございますが、今日この３つについてお話し合いをしていただきたいと考えております。

右のほうからまいりますけれども、「①鑑賞」、それから「②創造」、それから「③交流」ということです。

先ほどあったとおり、「どんな空間があるかな」というようなイメージを持っていただくといいかと思います。そこに書いてありますけど、「何を観たい」とか「どんなことをし

たい」とか「どんな交流があるといい」、ということのさらに延長で、「どんな空間があればいいでしょうか」というようなことでお話をさせていただきたいと思います。

その下のほうに薄く透かしのように文字が幾分書いてございますが、これは具体的過ぎるんですけれども、ここまでいきなりというよりは、空間というのをイメージしていただくのがよろしいかと思えます。

今回、大体小1時間ぐらいの時間を用意してございます。この枠3つございますので、大体15分から20分ぐらいで事務局のほうで合図をしますが、まんべんなくこれを時間どおりに切り替えてやるっていう必要はございません。順番を変えていただいてもいいですし、話しやすいところから話をさせていただいてもいいですし、ということでお考えいただきたいと思えます。

最後にはやはり皆さん各班の発表がございまして。発表していただきますので、発表者を選んでいただいて発表をお願いしますが、1人でも、複数でも構わないというふうにご考えております。大体、各班4分程度の発表になるかと思っております。

それでは、いつもどおりのお約束事でございますので、時間も限られていますし早速各班で議論をしていただきたいと思えます。よろしくお願ひいたします。

(ワークショップ)

○筒井(事務局) 時間になりました。これから発表の時間にしたいと思えますので、よろしくお願ひいたします。1班から1、2、3、4、5と順番に、席についていただいたまま発表をお願いしますと思えます。時間が限られておりますので、一つの班4分程度で発表いただければと思っております。よろしくお願ひいたします。

それでは1班からお願ひいたします。

○1班委員 1班です。よろしくお願ひいたします。

①、②、③、順番にいきたいんですが、まず「何を観たいか」といったときに、ホールのキャパとかサイズの話から始まりまして、大ホール・小ホール。いわゆる小ホールっていったときに「じゃあ今、人形劇場ってどうかな」って話になったんです。「人形劇でその音を、残響がないような作りであるけど、それが実は割と使い勝手がいいんじゃないか」といったときに、ホールのサイズも相まってなんですけども、ホールの専門性、それから汎用性をどんなふうにつくっていくのがいいのかな」というような話になりました。

それから、「創造」の部分になるんですが、「芸術工房」・「芸術工場」というキーワード

が出てきました。飯田らしさっていうのを求めたときになんですけれども、「ファブラボ、ものをつくる、ものづくりの工場。それ舞台芸術にかかわらず、例えば人形を作るような、学校の美術室や図工室のようなものがあったらいいんじゃないか。例えば、七宝を焼くときの窯のようなものが、文化会館に来ないとできないよっていうようなものが施設にあれば、それがまた住民たちのクリエイティビティを広げるんじゃないか」という話がありました。

また、練習室、「例えばオケの練習だと防音、そういう機能面も重要だ」という話。それからステージと、これも機能面の話なんですが、「ステージと同じ大きさのリハーサル室がいるのではないか」という話が出ました。一方で、「いわゆる会議室のようなものっていうのはどれだけ必要だろう」と。「ほかの施設に行っても会議はできる。それであれば、会議室というものは極力少なくし、その分、芸術活動に特化した文化会館でしかできないような部屋っていうのもつくったほうがいいのではないか」という話になりました。

3番、「交流」に関しては、「ホワイエ、ホールとチケットをもぎってからホールに入るまでのその空間っていうのが現状ではほぼほぼない。そのホワイエで幕間に前半のここが良かったとか、そういう話をできるスペースがあると、豊かな時間が得られるのではないか」ということがありました。また、「エントランスでしたり、ロビーとか中庭でしたりと、そういうところでの交流ができるといい」。

また「広場」っていうキーワードもやっぱり出てきます。オープンなスペースですよ。外から文化会館の賑わいが見える」とか、「その文化会館そのもの自体が外から見たときにステージのような賑わいをつくり出すような、つくり出しているっていうのが視覚的に見えるようなものであるといいな」という話になりました。

以上です。

○筒井（事務局） ありがとうございます。

非常に充実した意見交換ができた様子が分かりました。ありがとうございます。

続いて2班、お願いいたします。

○2班委員 2班です。よろしくお願いします。

まず、細かいというか具体的な話の前に出たのが、「文化会館の役割がどういうことかっていうことで、飯田中、例えばいろいろな文化を表現する場所という意味では、飯田中いろいろなところでできるでしょう」と。今、飯田の中でいろいろな活動されている人たち、クラシックもあればヒップホップとかポップスの関係も、いろいろありますよね。「そういうものがどういうところでできるのかっていうことを、しっかりまずは精査する必要がある」と。「例えばストリートなんかでやるようなパフォーマンスであればこういう場所でもでき

ますよとか、それから逆に同じダンス、舞踏のほうでも、例えばバレエだったらステージが必要だし、でもヒップホップであれば路上でもできる。そういうときに実際にこのホールとしての文化会館、何がその中で飯田の中を見渡したときにできないのか。それがまず新文化会館としての役割になるんじゃないかと思極めることが必要だ」ということが出ました。

先ほどの1班でも出ましたけど、「リハーサルができる場所、ステージと同じぐらいのところ」というのが出ましたけど、「そういう場所があれば、そこが小ホールとしても使えるんじゃないか」という話も出ました。「このような会議室なんかだと実際ライブ会場なかなかできないんですが、ここをちゃんとしたこういうスペースであっても音響的にちゃんとした形があれば、椅子を置けばそういうこともできるんじゃないか」と。飯田のキャパであれば、「オーケストラが来てもらうっていうことで、これ以上小さくなったら、ちょっときついなっていうのがやっぱり1,000人ぐらいの規模だ」という話なので、そこら辺りが「飯田はやっぱりあんまり大きいホールは必要ないね」という話も出ながらでも、「でも、きっと100人クラスのものがあればそう1,000人ぐらいというのが基本になるのかな」という話も出ました。それから「そういう状況であっても、ステージはやっぱり今のステージよりも広めにはあったほうがいいんじゃないか」ということ。

また、大切なのが、「文化芸術に普段触れてない人に、どういうふうにアプローチするかっていうことがすごく大切ではないか」。で、「飯田のほぼ10万人の人たちが、いずれは音楽だけじゃなくて、何かのその表現をするという表現者になるということが最終的に目的になれば、最もいいんじゃないか。その足を踏み入れるきっかけになるような場所として、文化会館はやっぱりあるべきだ」と。

あと舞台を観るといふ前に、今ではやっぱり「体験をする」ということがキーワードとして非常に大きい要素になっているので、そういうふうにもいろいろな人たちが何か体験できるようなということも一つ考えていきたい。

それからいろいろなものが、希望が出て、つくっていくっていうときに、民間とやっぱりバッティングしないというようなこと。例えばこちら太鼓の練習場、自分たちでつくりましたということで、「なんか市民が自分の力でできるものをあえてそれを造ってしまったりすると、市民の力を失う原因にもなってしまうのではないか」ということが出ました。

あと一番大事なのは、普段の日常生活とちゃんと重なっている部分をホールの敷地内にやっぱり欲しいなということです。公民館はやっぱり普段いろいろな人たちが出入りしてもらいたいっていう場所でもありますけど、公民館が古い形のところだと、玄関に入って事務室の横で「こんにちは」としないと入れない。「そこら辺が高校生たちが気楽に立ち寄ることが最

もできないという原因の一つになっているので、何もそういうことがない人が出入りできるような空間はすごく必要なんではないか」と。「敷居の高い芸術劇場ではなくて、でっかい公民館というような感覚の場所が、飯田の人たちにとってみれば非常に大事なんではないか」という、「入りやすい、それからフラットになるスペースということが大事だ」という、そんな話がありました。

以上です。

○筒井（事務局） ありがとうございます。

続いて、3班お願いいたします。

○3班委員 順不同になったり、まとまらない話になったりするかもしれませんが、まずはいわゆるホール機能を考えたときに、やっぱりさっきおっしゃっていたように、オーケストラを想定すると1,000人以上のホールになる必要があるけれども、例えば人形劇の立場から言えば、今1,000人のホールでできる人形劇っていうのはほとんど存在しないと。そうなってくると適正な規模、今フェスタをやるにあたって、会場として一番人気が高いのは人形劇場ですよ。キャパシティが200人のところ。そのくらいで、大手の人形劇団もそういった規模の芝居にシフトしてきているということも大分あるので、やっぱり大きいホール、あと中くらい、もしくは小規模のホールっていうものがやっぱり求められるのかなということで、「ただ小規模のホールはいわゆるスタジオみたいなところをうまく使う、機能とかも使っていてもいいのかな」と、そんな話が出てきました。

その中で一つの使い方としてなんですが、今アーティスト・イン・レジデンスっていう活動が結構盛んになってきていると思うのですが、「例えば、この文化会館で、海外のアーティストが飯田の人たちと共にとか、国内のアーティストと共に何か一つ、例えば人形劇の芝居をつくっていくとか、そういったことができる機能っていうものを想定して考えていくこともできたらいいよね」という話が出てきています。そういった機能を持たせることによって、例えば、滞在して1カ月なり2カ月なり滞在している間に、地域の小学校に出向いて、「今こんなことをしているんだよ」ということをやっていく。

今、芸術鑑賞の時間を取ることが学校としてなかなか難しくなっている中で、そういった人たちがふっと学校に来て、いろいろな簡単なパフォーマンスやってもらって、その子どもたちと交流していく。そういったことによって、地域の子どもの文化への関心を高めていくこともできるのかもしれないなど。同時に、「この文化会館の中で、その制作過程を市民も触れられるような仕組みをつくっていくということによって、ここに来た方々が何か一つ文化に直接触れられる。出来上がったものを見るだけではなくて、制作過程にも触れられ

る。そういった場所になるといいよね」というような話が出ています。

ただ、この会館をつくるにあたって、当然これ設計をされる方に頼まれると思うんですけど、そうしたときにデザイン優先になって、つくってみたら使いづらい、というようなところにはなってはいけない。だから、実際に使われるであろうジャンルのそれぞれの皆さんからの意見をきちんと取り入れてもらって。例えば、「人形劇で、実は部屋の広さはそんなに必要なくても、やっぱり高さがないと駄目だ」とかそういったことがある。でもつくってみたら、「あれタツパが足りないよ」みたいなことになっちゃったら、元も子もないってことで、「デザイン優先だからこうなっちゃうんだ」みたいなことがないような、そういったつくり方をしていく必要があるのかなと。そういった機能をきちんと担保した上でデザイン性が出てくるのは一向に構わないことだし、いいことだと思うんですが、そういったことを考えていく必要があるのかなということがあります。

それからあと、我々が今話していると、どうしても音楽だとか、芝居だとか、人形劇だとか、そういったところの場っていうイメージがあるんですが、絵を描いたり、具体的に物を作ったりとか、そういう文化活動も当然あるので、そういった人たちに対する、特に今の創造館のことが非常にいろいろ問題になっているんですが、「そういう機能も考えていく必要があるのかもしれない」という話も出てきていました。

あとは、練習場としてホールで練習したいとか、そういうニーズが結構あるので、そういったものにも対応できるようなホールのつくり方っていうのは必要かなと。

あまりまとまりませんが、とりあえずそんなところでいいですかね。はい、そんなところをお願いします。

○筒井（事務局） ありがとうございます。

続いて4班、お願いいたします。

○4班委員 4班ですが、いろいろな意見が出ました。

「鑑賞」の中では、聞く人にとって良い環境というか快適になるような施設。それから「今は椅子席が狭いので、ゆとりのある居心地のいい空間にしたい」と。それから大ホールと小ホールの使い分けということで、今も出ましたが、「飯田は人形劇を中心としたまちで、これも一つの売りなので、そういうことを考えるといろいろな使い分けのできる、鑑賞ができる場所にしてもらいたい」ということ。あとは「練習が発表の場所にできるような形で、練習を鑑賞できる場所がほしい」とか、「小中学生の音楽の発表の場になってほしい」とか、鑑賞の中ではそんな意見が出ました。

それから「創造」の中では、「太鼓やアンプなど、大きな音を制限なく出せる場所があれば

いい」と。「東京でなくて飯田で観たいものができるような場所にしてほしい」。それから「気軽に自己表現ができる場所になってほしい、そういうものはみんなで突き詰めることが必要である」ということと。それから「工作室みたいな部屋もつくってほしい」。「演劇の道具を作る場所あればまたいいし、作ったものを誰もが見られるような場所が欲しい」ということも出ました。あと「公民館ではできないような特殊な練習の場所、誰もが活動できる場所も欲しい」ということです。それから「みんなが集まって、発表もできるような場所」ということもありました。

それから「交流の場所」としては、「公園のような空間に、自由に演奏できるストリートピアノを置いてもいいんじゃないか」と。それから、「飲食ができないので、飲食のできるような交流の場所があれば良いか」ということ。「予約しなくても自由に使える場所」、「演者と聴き手が、交流できるような場所、終わってから交流できる場所」というようなこと。それから自分の活動、ストリートパフォーマンスとか今出ましたが、「そういう場所になってほしい」、「鑑賞をした後、感想を共有できるフリースペースのような場所をつくっていききたい」というようなことですね。そういう意見が出ました。

以上です。

○筒井（事務局） ありがとうございます。

それでは最後に5班の発表をお願いいたします。

○5班委員 5班ですが、まず「交流」ということで、中心にあるのはホールではなく共有スペースの広いスペースだということ、「そこではこの辺の風流踊もできて、それを周りで皆さんが座ったり立ったりして見れるというような広いスペース。その周りにホールの入り口があったり、スタジオの入り口があったり、情報コーナーがあって、例えばそこにカフェがあってそこで座る。例えばコーヒー飲みながら、ワイン飲みながら、自由なスペースでダンスもやっているようなところを見れるという、そういうスペースがいるんじゃないか」という話です。そこではストリートピアノも行われることができるようなスペース。

あと「創造」ということで、「スタジオ、リハーサル室、練習室、いろいろつくと使い方が固まってしまうので、兼用できる部屋がいいんじゃないか」ということで、「そこではピアノ発表会とか人形劇の発表会もできるというようなスペースでいいんじゃないか」ということですね。あと「楽器庫とか工作室とかっていうのも必要になってくるんじゃないか。そこには防音もスタジオ機能も持たしたらいいんじゃないかな」ということですね。

あと「鑑賞」ということは大ホール・小ホールの組み合わせ。「小ホールが必要ということで、キャパ500くらいの部屋がいいんじゃないかな」ということですね。あと「楽屋も非常

に大事なことだという場所である」ということで出ましたね。あと「四角い部屋でいろいろなところにステージができるようなところもあってもいいんじゃないか」と、そういうことが話が出ました。

以上です。

○筒井（事務局） ありがとうございます。

それぞれの各班からいろいろなご意見いただきましてありがとうございました。

今、発表していただいてご意見、これだけは言っておきたいっていう方がいらっしゃいましたら、少しお時間ありますけれどもいかがでしょうか。よろしいですか。

（発言する者なし）

○筒井（事務局） またアンケート等もありますので、ご意見あればいただきたいと思います。

それでは委員長にお願いいたします。

○委員長 それぞれの発表ありがとうございました。

それでは次に進みたいと思いますが、本日の振り返りとして学識委員からコメントをお願いしたいと思うんですが、その前にせっかく今日、明治大学の学生さんがいらっしゃいますので、一言ずつ感想をぜひお願いしたいと思いますが、よろしくをお願いします。

○学生 そしたら僕から。本日はこのような機会に参加させていただきありがとうございます。率直に僕が一番最初に抱いた感想として、飯田の皆さんがすごい芸術に、音楽であったり、劇であったり、ものづくりであったりもそういった芸術とか文化に精通されている、すごい精通されているなっていうのが、率直な感想としてまず抱いておまして、だからこそこの文化会館が、これは僕が皆さんの話を聞きながら抱いた考えなんですけども、なんかこうきちんと文化を表現できる機能とかを持ちながらも、同時にいろいろな人に広く開かれたような場所であるといいと思ったところです。

本日はありがとうございました。

○学生 私は今まで生活していて、こういった文化会館のように利用される施設が自分の日常と直接関わっているようなイメージができていなかったんですが、今回こういった会に参加させていただいて、私たちの日常の出来事であったり習慣をどのようにこういった空間につなげていけるかっていう議論がとてもすごい新鮮で、新文化会館ができたときの空間の使われ方がすごいリアルに想像できてすごい楽しい時間でした。

本日はありがとうございました。

○学生 今日は貴重な時間をありがとうございました。

私自身、中学・高校と吹奏楽部でこういったホールだったりとか劇場っていうのは、比較

的身近だったのかなとは思っているんですけど、これだけ地域に密着して地域の人たちに考えられてできている劇場とかホールってなかなかなかったのかな、あったら良かったのになって思いながら聞いていました。

大学生になって飯田に来るようになって、飯田のいいところって、すごい人の温かさだったりとか、こういった文化の多様性だと思うので、そういったのが現れるような文化会館になればいいなと思っています。

本日はありがとうございました。

○学生 本日はこのような貴重な機会を設けていただいて、本当にありがとうございます。

私は普段、建築都市学を専攻していて、その専門の方と話す機会は多いんですけど、こういったいろいろな専門の方とお話する機会というのはあまりないので、すごい新鮮でした。

こういった文化会館という一つの施設をつくるっていうことに対して、こんなにいろいろな人がいろいろな意見を出し合ってるんだっていうことにとっても驚きました。

私は、この飯田で空き家活用プロジェクトっていうのに主体的に取り組ませていただいて、こういった議論の場でそのヒントになるようなことっていうのが何個か拾えたので、今後そういったところにも生かして頑張っていきたいなと思いました。

本日は本当にありがとうございました。

○委員長 私たちがこれからさらに考えていくのにすごく勇気をいただいた、活力をいただいたように思います。本当にありがとうございました。

それでは学識委員からコメントをお願いしたいと思います。

○学識委員 今回の視点ですね。劇場の機能・空間という角度からお話だったんですけど、この視点からお話をして、改めて飯田市さんの多様な芸術文化がここに定着して、発展して、継承されているっていうのを改めて実感させていただきまして、本当すごいなと思いました。

これだけ今まで発展してきた芸術文化があって、それをしっかりと視野に入れて、こういった機能が必要で、ああいった機能が必要だって、かなり具体的に絞り込まれてくるのではないかなと思っています。

建築の皆様が、勉強されている方がおられる前と言うのも失礼かと思うんですけど、今後、要求水準書とかコンペディションに入って、基本設計、実施設計ってなっていくかと思うんですけども、そのときかなりスタートが早く、本当にイメージしてるホールづくりいうのが進んでいくんじゃないかな。逆にここまであるからこそ、デザイナーの方もアイデアを膨らませて、具体的なアイデアを持って提案してくることができるんじゃないかなっていうようにも思いました。

今後、この機能・空間に関しては、そういったように新たなメンバー、建築スタッフと、新たなメンバーが出てくるとお思いますので、この今回の皆様のお話が面白いなというような建築の方が出てきて、その方々と意見をどんどん交換して、本当に飯田の皆様の文化がさらに花咲いていくような施設ができてきたらいいなというのをイメージして、そこにそうなるんじゃないかなという具体的なイメージを持てるような会となりました。

本日どうもありがとうございました。

○委員長 ありがとうございました。

それではお願いします。

○学識委員 ありがとうございました。

いろいろな班の皆さんのお話を伺っていて、言葉は違いましたが、大体、皆さんお話をされている内容っていうのは共通してることなのかなっていうふうに感じております。

ここでは私が「大きい公民館」みたいな言葉をお話したんですけども、決して豪華である必要はないと思うんですけども、ある程度の主目的、このホールはどういう目的で使う、市民の皆さんがこう活用されていくのかっていう、そういう目的を持ちながら、一方では、機能的には多機能であって、先ほども出ましたリハーサル室が必要だと。でも、そこはスペースを考えれば、本番コンサートもできるようなそういう施設、機能面を持つことによっていろいろと活性化、いろいろな形で利用できるようなスペースになってくるんじゃないかなっていうふうにもお思いますので、その辺はこれから具体的に計画に入っていく中で、またより皆さんのいろいろな意見を踏まえながら設計のほうに入っていければいいんじゃないかなと思っています。

私はあと、意外にやっぱり飯田の皆さん、民間で既にそういう施設だとか自らそういうものをつくっていらっしゃるというお話を伺って、びっくりしたんですけども、やっぱり自治体が公立のホールをつくるということは、そこはやっぱり設備的なものであるとか、何らかでちょっと差別・区別をできるようなもので、民間の皆さんのいろいろな力を逆に失わないような、一緒にまたそれが活性化していけるような、そういう施設にするべきなのかなっていうふうにもお思います。

僕らは、実際に実演をする団体でもありますが、僕らがいろいろなホール行って「ここはいいホールだね」というのは、決して豪華なホールである必要はないと思っています。ただ、お客さんから見るとやっぱり日常的なホールでもあってほしいので、若干そういう部分も必要なんですけれども、裏のほうでは決して高価ではなく、どちらかと言ったらすごく使い勝手のいいホールにするべきで、飯田の皆さんはその両面を皆さんよくご存じなので、

その辺のバランスをよく考えられて、これからまたいろいろと具体的なお話が進んでいけばいいんじゃないかなというふうに思いました。

ありがとうございました。

○委員長 ありがとうございました。

それではお願いします。

○学識委員 全てのグループの皆さん、やはり同じようなことを考えていらっしゃるなと思いました。まず一つは、日常と結びついた機能性とか空間性といったようなイメージが、かなりのグループに共通していることなのかなと感じました。

そういったものと結びつく中で、いくつか印象に残った言葉としては、まず今の「大きい公民館」という日常性ですね。大ホールと、メインホールとサブホールみたいな構成というのはほぼ皆さん共通の意識として持たれているのかもしれないですけども、なんかそれ全体としては大きい公民館的な、こう日常性みたいなものっていうのは、一つ面白いなあと思いました。

それからこれは、私のグループで出ていて面白いなと思ったキーワードですけども、「工場である」とか「工房である」とか「ものづくり工場である」とか、いわゆるその空間としてはかなりニュートラルと言いますか、そこでいろいろな創作活動が起こるような空間性みたいな感じですかね、そういったものが、今までの飯田の議論を聞いてきた印象と私の中で非常によくつながったなと思います。

それからいわゆる日常的にこうつくっていくという意味での「アーティスト・イン・レジデンス」というのも、今の時代の中でも非常に着目をされているようなつくり方かなと思いました。

それから、公園とか広場とか、そういう半屋外・屋外的な空間というのも、やはり日常と結びついた機能性・空間性というのものにもつながっていると思いますし、いろいろなグループの方の発表を聞いている中で、高校生とかやはり小・中学生とか、そういった利用者の層というのかなり日常と結びついたというところにつながっているのかなと思いました。

そういったものを空間としてつくっていくときに、外から見るとか、見る・見られるとか、触れられるとか、共有するとか、何かそういったものから日常的な交流が生まれるような、そんなような空間、それがまさに「大きい公民館」というような何か全体をくくる一つのキーワードとして聞けるのかなという印象を持ちました。

以上です。

○委員長 ありがとうございました。

それでは続いて、オブザーバー、感想をお願いします。

○オブザーバー オブザーバーということで参加させていただいています。

ちょうど1年になるんですかね、この会議が始まって。今日いろいろな形をお伺いしていて、鳥の目から虫の目にきて、いよいよ具体的な器の話になってきたのかなと感じました。だんだん虫の目は大事ですが、鳥の目を大事にしないと虫の目もきちんと見れないのかなという感じを今日いたしたところでございます。

それはそれとして、全くローカルな話でございますが、現在、市政懇談会、市長が各地区に向かって懇談会をしていく中で、結構、文化会館の話題が出ているんですね。自治の現場の、市民の皆さん一人一人が現場の中から声を出して、新しいものをつくっていかうとしているわけです。この大事な作業が最も素晴らしい文化会館ができる。やっぱり市立の文化会館のあり方として、この会議がものすごく大事だということです。

文化会館の職員をはじめとして、現場の文化会館は頑張ってもらって、この検討会議、この検討委員会の意見を大事にさせていただいて、上へ上げていただきたいなとつくづく思います。よろしくをお願いします。

○委員長 力強い激励をいただきまして、ありがとうございました。

それでは最後に事務局の秦野から本日のまとめを含めて、次回に向けてのご発言をお願いいたします。

○秦野（事務局） 皆さん、本日はありがとうございました。

今まで非常に大きなお話がありましたけども、大きな部分で検討してきていただいたところを、具体的な部分へ落とし込みをしてきたというのが、今日のステージだったかなと思います。

実際、自分たちがどういう活動をするために、何が必要なのかっていうところを考える部分に入ってきたということで、今後、またさらに基本構想の骨子を検討するステージに入りますけれども、それにその前段階として、皆さんで考えていただきたいなというところを今日を行っていただいたところであります。

第8回につきましては、この施設機能の関係をさらに検討を深めるという部分と、私どもの事務局から基本構想の骨子を検討するという段階へ入らせていただきたいと思います。

今までのこの1年間で話し合われたことがどのように反映されて、提示を、まずは第一段階として提示できるかという、非常に重い責任を持っているわけでありますけども、ぜひ次は施設機能の考えをもう一度行うとともに、基本構想の骨子をご提示していきたいと考えておりますので、ぜひよろしくお願ひしたいと思ひます。

よろしく申し上げます。

○委員長 ありがとうございました。

本日予定されておりました議事は以上となります。

委員の皆さんには、活発な、積極的な発言ご参加をいただいてありがとうございました。
引き続き、次回以降も積極性を失わずによろしくお願いいたします。

4 事務連絡

○委員長 では、最後に事務連絡を事務局から申し上げます。

○筒井（事務局） はい、本日はありがとうございました。

アンケート、毎回ですけれども、アンケートをお付けしておりますので、書いて出してい
ただければありがたいと思っておりますし、メールでの提出も大歓迎でございます。

なお、次回の第8回、先ほど次長が申しましたけれども、整備検討委員会ですけれども、
9月5日火曜日、こちらの文化会館で開催したいと思っております。今から日程の調整をお
願いしたいと思います。

また、入り口にこれまでのニュースレターや、情報誌「toi toi toi！」を置いてございま
すので、もしお近くに関心のある方、文化会館の取り組みがどうなっているという会話があ
りましたら、ぜひ配布していただくとうれしいと思っております。

また今日、明治大学の研究室の皆さん、本当にありがとうございました。今後も、飯田市
内に、飯田下伊那、根羽、平谷、浪合、阿智のほうも含めて活動されておりますので、どこ
かで見かけることがあると思います。ぜひ皆さんお声をかけていただいて、この明治大学の
学生の皆さんと一緒に飯田下伊那のことを考えていただけたらと思っております
ので、よろしく申し上げます。

事務連絡は以上です。

○委員長 はい、ありがとうございました。

5 閉会

○委員長 以上で第7回、新文化会館検討委員会を閉会いたします。

1分前です。ありがとうございました。

閉 会 午後8時59分